

1. 学校の概要、目的及び計画

◆和歌山YMC A国際福祉専門学校の沿革

和歌山YMC Aは、任意団体として1977年（昭和52年）に設立され、ウエルネスセンター（健康教育）、ランゲージセンター（語学教育）を、そして1996年に学校法人和歌山キリスト教青年会として和歌山YMC A国際福祉専門学校 介護福祉士科が、2002年には日本語科が設立され、これら4つの部門での活動を展開し、青少年育成と地域社会の発展に貢献しています。

現在、商業実務系・文化教養系・福祉系・医療系・体育系などを含んだYMC A専門学校は北海道から沖縄まで全国で21校が学習指導・進路指導を一体化させた教育を行ない、全国的なネットワークを生かして就職指導、進路指導を展開しています。

◆本校の基本聖句

「すべての人を一つにしてください。」（ヨハネによる福音書17章21節）

◆本校の教育理念

和歌山YMC Aはキリスト教団体として、イエス・キリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、平和で公正な世界の実現をめざして、「和歌山YMC Aミッション・ステートメント」を制定いたしました。

和歌山YMC Aが運営する専門学校においても、学校そのものがこの使命を追求していきます。同時に学生自身が「和歌山YMC Aミッション・ステートメント」に共感し、実践できる人材として成長できるよう援助し、その専門分野において十分な貢献を果たすことができ、また地域社会、ひいては広く世界の「平和と公正」に寄与できる人材を養成します。

◆和歌山YMC Aミッション・ステートメント

私たちは、海・山・川の自然豊かな和歌山において、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方にもとづいて、次代（21世紀）を担う青少年の精神・知性・身体の調和のとれた成長に関わるとともに、全ての人たちと共に生きる社会と世界の平和の実現をめざします。

◆介護福祉士科教育目標

一人ひとりの「いのち」が輝き、笑顔を生み出すことの出来る介護を実践することの出来る介護福祉士を要請します。

介護スペシャリストとして、高齢者や障がい者の介護にあたる「介護福祉士」を目指します。近年では食事や排泄、入浴や衣服の着脱など身の回りのお世話をするだけの介護から、自立した生活を“共に生きる”ことでサポートする介護へとその質が変化していきます。

そのようなニーズに応え、介護対象者やその家族と直接向かい合い、様々な問題を解決できる質の高い人材を育成します。

具体的な介護技術の習得はもちろん、高齢者や障がい者を援助する上でのコミュニケーションのとり方、福祉、医学、薬学、介護、医療的ケア、家政学、レクリエーションなど、幅広い知識を実技と共に学習します。

さらに、YMC A介護予防運動指導者の学びも行います。

1. 豊かな心と知性を兼ね備え、信頼される介護福祉士を目指します。
2. 様々な施設での実習で、障がい者援助・高齢者介護を多面的に理解します。
3. 社会人として必要な様々なスキルの習得を基礎からサポートします。

<校長名、所在地、連絡先等>

学校名 和歌山YMC A国際福祉専門学校

校長 井之上 芳雄

所在地 和歌山県和歌山市太田一丁目 12 番 13 号

連絡先 TEL 073-473-3338

FAX 073-473-2666

<学校の沿革、歴史>

1995年（平成7年） - 和歌山YMC A会館が完成

1996年（平成8年） - 和歌山YMC A福祉医療専門学校 介護福祉士科が開設

2002年（平成14年） - 日本語科開設

及び和歌山YMC A国際福祉専門学校に校名変更

2014年現在、和歌山YMC A国際福祉専門学校は、介護福祉士科と日本語科が併設

2. 学科の教育

<入学者数、定員、卒業・評価の基準>

入学者数 2014年4月 14名

収容定員 1学年40名 収容定員80名

卒業生数 2013年度卒業生 34名

就職 2013年度生 100%

介護福祉士国家試験合格率（現役生）100%

就職先進路 寿楽園、永寿苑、紀三井寺苑、田鶴苑、ももの里、緑風苑、愛の風、紀伊松風苑、高陽園、虹、わかうら園、古座川園、紀伊てまり苑、喜成会、大日山荘、日高博愛園、真寿苑、山口葵園、ライフケア有田、カルフル・ド・ルポ、紀伊の里、グリーンガーデン橋本、恵友ライフケアセンター、さくらの丘、パインドーム、光苑、やすらぎ苑、アメニティかつらぎ、ラ・エスペランサ、あいの里、あい楠見、ばなさんぶる、すずらん 等

<カリキュラム・時間割・年間授業計画>

カリキュラム (2014年度)

【分野名－人間と社会】

教科名	形態	必修/選択	単位	19期生			
				1年次		2年次	
				前期	後期	前期	後期
人間の尊厳と自立	講義	必修	2		○		
社会福祉援助技術	講義	必修	2	○	○		
社会保障論	講義	必修	2			○	
社会の理解	講義	必修	1		○○		
キリスト教概論	講義	必修	2	○			
人間形成論～メンタル心理学とマナー学～	講義	必修	1	○			
心理学	講義	必修	1				○
音楽表現	講義	必修	2		○		
障害者海洋活動支援概論	講義	必修	2	○			

【分野名－介護】

教科名	形態	必修/選択	単位	1年次		2年次	
				前期	後期	前期	後期
介護の基本	講義	必修	4	○	○		
介護概論	講義	必修	8			○○	○○
コミュニケーション技術	講義	必修	4	○	○		
点字	講義・演習	必修	1			○	
手話	講義・演習	必修	1				○
生活支援技術Ⅰ（調理）	講義・演習	必修	1	○			
生活支援技術Ⅰ（被服）	講義・演習	必修	1		○		
居住環境の理解	講義・演習	必修	2		○		
介護実技Ⅰ	講義・演習	必修	8	○○	○○		
介護実技Ⅱ	講義・演習	必修	4			○○	
形態別介護技術	講義・演習	必修	4			○	○
介護過程Ⅰ	講義	必修	2		○		
介護過程Ⅱ	講義	必修	8			○○	○○
実習指導Ⅰ	講義・演習	必修	4	○	○		
実習指導Ⅱ	講義・演習	必修	4			○	○
施設介護実習	演習	必修	43	○	○	○	○

【分野名－こころとからだ】

教科名	形態	必修/選択	単位	1年次		2年次	
				前期	後期	前期	後期
発達と老化の理解	講義	必修	4	○	○		
認知症の理解	講義	必修	4	○	○		
障害の理解	講義	必修	4	○	○		
医学概論	講義	必修	2	○	○		
こころとからだのしくみ	講義	必修	6			○	○

【分野名－医療的ケア】

教科名	形態	必修/選択	単位	1年次		2年次	
				前期	後期	前期	後期
医療的ケア（講義）	講義	必修	6			○○	○
医療的ケア（演習）	演習	必須	2				○

【集中講義】

教科名	形態	必修/選択	単位	取得学年	取得資格
救急法	講義・演習	必修		1年次	日赤救急員
キャンパインストラクター講習会	講義・演習	選択		2年次	キャンパインストラクター
介護予防運動の理論と実践	講義・演習	選択		2年次	介護予防運動インストラクター
障害者スポーツ指導員（初級）	外部受講	選択		2年次	障害者スポーツ指導員（初級）

※1 「人間と社会」「集中講義」で履修する科目と同一である

必修単位数合計		142			
---------	--	-----	--	--	--

<時間割例（1年生 前期）>

曜日		月	火	水	木	金
I	9:30～ 11:00	発達と老化 の理解		障害の理解	介護実技 I	
		田中		寺本	野上	
II	11:10～ 12:40	介護の基本	医学概論	共生と社会	介護実技 I	生活支援技 術（調理）
		嶋田	塩路	村上	野上	野上
III	13:30～ 15:00	実習指導 I	キリスト教概 論	障がい者海 洋活動支援 概論		人間形成論
		嶋田	村林	白杉		田邊
IV	15:10～ 16:40	コミュニケー ション技術	認知症の理 解	社会福祉援 助技術		
		井端	浅野	玉置		

<年間計画>

前期：4月1日～8月29日、後期：9月1日～2月9日（学年始め：4月1日）

夏季休業：8月11日～8月24日、冬季休業：12月24日～1月4日、

学年末：3月31日

<進級・卒業の要件および評価基準>

評価基準

1. 授業科目の時間数の2/3以上の出席がない場合には単位の認定をしない。
2. 授業科目の単位認定は試験（卒業論文を含む）の成績及び平素の学習状況を総合評価し、合格した者に与える。
3. 成績評価はA（優 100点から80点）、B（良 79点から70点）及びC（可 69点から60点）とし、E（不可 59点以下）C以上を合格とする。
4. やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった生徒は所定の手続きにより追試験を行う。
5. 定期試験の評価が6割未満の科目については所定の手続きにより再試験を行うことがある。
6. 再試験の履修認定は6割以上の成績をもって認定する。

進級基準

成績評価に基づき、成績判定会議を経て、所定の単位を取得した生徒が進級する。

卒業基準

各学年の教育課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験等により認定を行い、生徒が所定の全教育課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。

3. 教職員

<教員数>

○校長 1 名（男 1） 井之上 芳雄

○副校長 1 名（男 1） 村上 徳光

○常勤教員 3 名(女 3)

嶋田 直美（主任専任教員）

担当：介護概論、介護の基本、介護過程Ⅰ・Ⅱ、実習指導Ⅰ・Ⅱ、卒業研究
プロフィール

学 歴：桃山学院大学大学院社会学研究科前期博士課程 修了（社会学修士）

職 歴：医療法人美咲会介護老人保健施設オレンジの郷等

所属団体：日本介護福祉士会、日本社会福祉士会、日本介護学会、

日本生活支援学会、日本自立支援介護学会、人間福祉学会

資格・免許：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、保育士

社会活動：介護認定審査会委員（平成 13 年度～）

介護福祉士実技国家試験実地委員（平成 19 年度～平成 23 年度）

介護福祉士国家試験委員（平成 24 年度～）

他、常勤教員 2 名（女 2） 非常勤講師 1 7 名（男 6 女 11）

○事務職員 2 名(女 2)

<研修について>

研修・学会名	主な内容	日程	企業との連携内容及び教育内容との関連性
公益社団法人日本介護福祉士会総会	介護の質を守るために必要な取り組みについての検討会	2014/5/24 (土)	介護の質を守るための取り組みを介護福祉士養成教育に活かす
一般社団法人「和歌山県介護福祉士会」主催・和歌山 YMCA 国際福祉専門学校共催の特別講演会に参加。	自分自身のメンタルヘルスを考える ～燃え尽きないために～	2014/5/31 (土)	情報交換等を行い、よりよい授業展開を考察し、授業内容向上のための研究授業
公益財団法人社会福祉振興・試験センター第 27 回介護福祉士試験委員会	第 27 回介護福祉士国家試験の取り組みについての検討会議	2014/6/6 (金)	介護福祉士国家試験のあり方について、今後の介護福祉士養成教育に活かす
日本介護福祉士会近畿ブロック研修	障害者支援計画書の作成	2014/7/9 (土)	障害者支援における介護過程の展開について作成方法について授業に活かす
一般社団法人和歌山県介護福祉士会定例理事会	介護福祉士研修の取り組み方についての検討	2014/8/16 (土)	介護現場における介護福祉士の資質向上についての取り組みを介護福祉士養成教育に活かす
日本生活支援学会 平成 26 年度定例研究会	人々の生活支障を解決・軽減するための生活支援の学的体系を探索し、生活支援学として理論と実践の統合をめざしている	2014/8/24 (日)	生活支援学についての理論と実践方法を介護福祉士養成教育に活かす
日本介護学会	現場から立ち上げる介護福祉士の専門性～実践・教育・研究～	2014/10/10 (金)～ 2014/10/11 (土)	臨床介護研究の普及啓発、また介護に関する学術研究の構築を目的とし学生の卒業研究に活用
一般社団法人和歌山県介護福祉士会定例理事会	介護福祉士研修の取り組み方についての検討	2014/11/15 (土)	介護現場における介護福祉士の資質向上についての取り組みを介護福祉士養成教育に活かす
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 平成 26 年度全国教職員研修会	介護福祉士養成施設の教育機能を地域社会へどう活かしていくのか	2014/11/19 (水)～ 2014/11/21 (金)	介護分野の最新研究に携わり授業に活用する
日本 YMCA 大会	YMCA の力と可能性を結集 講演とワークショップ等	2014/11/22 (土)～ 2014/11/24 (月)	
公益社団法人日本介護福祉士会全国大会	介護福祉士 考える力 表現する力 つなぐ力	2014/12/12 (金)～ 2014/12/13 (土)	専門職の人材育成について、介護福祉士養成教育に活かす
公益財団法人社会福祉振興・試験センター第 27 回介護福祉士試験委員会	第 27 回介護福祉士国家試験の取り組みについての検討会議	2015/2/5 (木)～ 2015/2/6 (金)	介護実技のポイントについて生活支援技術に活かす
公益財団法人社会福祉振興・試験センター第 27 回介護福祉士試験委員会	第 27 回介護福祉士国家試験の取り組みについての打ち合わせ会議	2015/2/19 (木)	介護実技のポイントについて生活支援技術に活かす
一般社団法人和歌山県介護福祉士会定例理事会	介護福祉士研修の取り組み方についての検討	2015 年 2 月中	介護現場における介護福祉士の資質向上についての取り組みを介護福祉士養成教育に活かす

4. キャリア教育・実践的職業教育

<実習への取り組み>

授業科目名	施設介護実習	授業時数又は単位数	650 時間
実施期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日		
実習・演習等の目的及び概要	<p>1年次：学内で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護の需要に関する理解力、判断力を養う。</p> <p>2年次：利用者の生活のニーズを理解し、適切な介護を展開する能力を養うとともに、自己の介護福祉観を深める。</p>		
企業等との連携の基本方針	学校が作成した「実習委託基本契約書」をもって、契約書に従い行う。		
企業等との連携内容	毎年5月に「実習指導者会議」を開催し、その年の施設介護実習に関する内容等説明する。また、何かあった場合は実習担当教員と実習指導者で密に連絡を取り合いながら、スムーズに実習が行われるようにする。		
学修成果の評価方法	本校作成の評価表に従って評価を行う。実習に関する評価は、施設介護実習および実習指導（講義・演習）のあわせた評価とする。		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
1年次前期	介護全般（見学中心であるが、指導者の指導・監督の下で実践することができる）	介護老人福祉施設等	
1年次後期	施設実習において、デイサービスの体験をする。（看護師・医師等の職務内容の理解を体験する）	介護老人福祉施設等	
2年次第1週目	施設全体を知り、第一週目後半に受け持ち利用者を決定し、情報収集およびアセスメントを行う。	介護老人福祉施設	
2年次第2・3週目	受け持ち利用者についての情報収集・アセスメントおよび介護計画の立案を行う。	介護老人福祉施設	
2年次第4週目	自己が立てた介護計画に対して、実施を行う。	介護老人福祉施設	
2年次第5週目	自己が立てた介護計画に対して実施を行ったことの評価を行う。	介護老人福祉施設	
連携する企業等	介護老人福祉施設および障害者（児）施設		

<就労支援への取り組み> 2年次

<p>4～6月</p>	<p>就職ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ①提出書類申請のための諸手続について ②模擬面接 <p>2年次前期授業開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自己理解 ②就職活動計画作成 ③卒業時共通試験準備 <p>求人情報の提供 希望就職先のしぼり込み パソコンでの情報収集</p> <p>随時個人面接（各自、施設見学を積極的に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①履歴書内容確認 実施し、情報収集を行う。 ②エントリーシート内容確認 ③面接練習 ④就職活動計画の調整 <p>クリーンキャンペーン クラスの仲間とのチームワークにより社会性を養う</p>
<p>7～9月</p>	<p>前期試験 専門性を養う（前期の学びの振り返り）</p> <p>介護施設実習Ⅱ（専門性・社会性・人間性を養う）</p> <p>随時個人面接（各自、施設見学を積極的に）4～6月と同様</p> <p>未内定者に対するフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人面接 ②就職活動評価、指導 ③求人情報の斡旋 後期授業開始
<p>10～12月</p>	<p>個人面接</p> <ul style="list-style-type: none"> ①就職内定者に対する目標設定 ②卒業までの学校生活について <p>YMCAカーニバル（人間性・社会性を養う）</p> <p>クリスマス礼拝（人間性を養い、静かに自分と向き合う時間）</p> <p>介護施設実習Ⅱ 専門性を養う（最終段階の実習報告）</p>
<p>1～3月</p>	<p>資格取得のための学びの総まとめ</p> <p>知識・技術だけでなく人間性に富み社会一般常識も備えた職業人を目指す</p> <p>後期学期末試験（専門性を養う）</p> <p>介護福祉士卒業時共通試験（専門性・社会性・人間性を養う）</p> <p>就職未内定者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人面接 ②就職活動評価、指導 ③求人情報の斡旋 <p>卒業式</p>

5. 様々な教育活動・教育環境

<学校行事>

4月	入学式 オリエンテーション 新入生オリエンテーションキャンプ
6月	1年次施設実習 クリーンキャンペーン
7月	2年次施設実習
8月	卒業研修旅行（東日本大震災復興ボランティア）
9月	1年次施設実習
10月	YMCAカーニバル 1年次施設実習
11月	1年次施設実習 2年次施設実習
12月	2年次施設実習 クリスマス礼拝
2月	卒業研究発表会
3月	卒業式

6. 学生の生活支援

<学生への支援状況>

担任制としており、前期・後期に全学生を対象に個人面接を行い、学生の把握、指導を行います。また問題や困難など相談したい時は随時、面接を行い問題の解決を図ります。早期解決することにより、退学を防いでいきます。

7. 学生納付金・修学支援

<学費について>

学 科	授業料（年額）	実習費	施設費	入学金
介護福祉士科	1年 720,000円 2年 720,000円	50,000円 50,000円	170,000円 170,000	180,000円

※入学生は、初年度に180,000円を手続き時にお支払いいただいております

※分割納入第1回／新入生の場合は、入学手続き時、進級時は各年度開始前の3月下旬まで

※分割納入第2回／各学年、8月中旬まで。

※その他の費用に関して／教科書代、ユニフォーム等の学生諸経費は入学時別途納入となります。詳細は、入学決定後ご案内致します。(年間 約 10 万円)

<修学支援について>

1) 入学者に対しての支援

① AO入試・・・入試検定料無料及び

入学手続きの時期により学生納付金(入学金を含む) 25万~5万円免除

② 特待生入試・・・特待生A~Dに対して入学金免除と1年次授業料 10万~35万円免除

③ 指定校推薦入試・・・学生納付金(入学金を含む) 25万円免除

2) 和歌山YMC A国際福祉専門学校 of 専門学校奨学金

①生活支援奨学金(年間 12万円 返還義務なし)

内容: 親元を離れて、下宿等をしている学生

②遠距離通学支援奨学金(年間 3万円 返還義務なし)

内容: JR 和歌山駅までの通学距離が 50 km以上(御坊駅より以南)の学生

③2年次特別奨学金(2年次に 10万円 返還義務なし)

内容: 1年次を通して成績優秀で、他の学生の模範となり、学校の諸活動に貢献した学生 1名

3) 日本学生支援機構奨学金制度

この奨学金は貸与となり、返還義務のある奨学金制度となります。

- ・貸付対象者: 日常生活・成績共に優秀な学生で、経済的理由により修学に困難がある者。
- ・奨学金種類別募集人数と貸付金額

第一種奨学金(無利子貸付)・・・0名(2013年度実績。毎年機構より人数が通知されます)

自宅通学の場合: 月額 30,000円または 53,000円

自宅外通学の場合: 月額 30,000円または 60,000円

第二種奨学金(きぼう 21プラン)

※有利子貸付・・・6名程度(2013年度実績。毎年機構より人数枠が通知されます)

月額 30,000円・50,000円・80,000円・100,000円・120,000円より選択可能。利子上限・・・年
利率 3%。

※日本学生支援機構奨学金の予約採用済の方は、入学後に進学届の提出等を行うと正式に奨学生として採用となります。新年度オリエンテーションにて、内容は確認します。

4) 生命保険協会奨学金制度

この奨学金は貸与となり、返還義務のない奨学金制度となります。

- ・対象者: 介護福祉士養成施設の介護福祉士養成のための学科に在学し、将来介護専門職として活躍する志をもった学生で、学業、人物ともに優秀で、かつ健康であって、経済的援助を必要とする学生
- ・奨学金種類別募集人数と貸付金額: 新2年生 1名で月額 20,000円

5) その他奨学金

介護福祉士科には、各都道府県の修学資金貸付制度があります。

8. 学校の財務

下記のアドレスにて（和歌山YMCA国際福祉専門学校ホームページ）情報公開

<http://www.wakayamaymca.org/kaigo>

「学校法人和歌山キリスト教青年会」の情報公開

2013年度貸借対照表

2013年度資金収支計算書

2013年度消費収支計算書

9. 学校評価

<自己評価・学校関係者評価委員会記録>

下記のアドレスにて（和歌山YMCA国際福祉専門学校ホームページ）情報公開

<http://www.wakayamaymca.org/kaigo>